

3.11後を憎しみから離れて生きるために 他者の尊厳を考える ～映像とナラティブ（物語る声）を軸に～

- 第1回 講演 被災地から日本社会を見る 4月23日（火）午後7時～9時
佐藤信行さん（さとうのおゆき：RAIK 在日韓国人問題研究所長 外国人被災者支援センター長）
*3. 11後、外国人被災者支援プロジェクトに係わるなかで、被災地の中でも周縁に置かれた外国人市民の傍らに居続けながら受け取った「声」に耳を傾けます。
- 第2回 講演 フクシマを生きる 4月30日（火）午後7時～9時
赤城修司さん（あかぎしゅうじ：福島県立高校教諭）
*いまもフクシマにとどまり、さまざまな葛藤を抱えながら、直視し続ける風景は、私たちにあって、「眼に見えない風景」になっているのかもしれない。「眼に見えない風景」目を凝らしながら、いまフクシマで湧き出て来つつある「声」に耳を傾けます。
- 第3回 講演 憎しみを超えるために必要な運動について① 5月7日（火）午後7時～9時
福田稔/宇塵塵さん（ふくだみのる/うちゅうじん：詩人、障害者表現集団「湘南亀組」世話人）
*現代社会にわき起こりつつある、他者を排除する「声」はなぜ湧き出するのか？10万人の沖縄の声、20万人の東京の声が聞き届けられない社会にあって、憎しみを超え、人びとが引く境界線を越え、他者の尊厳を尊重する運動をどのように紡いでゆくべきか？脳性マヒの身体を持つ障がい者としての自身の経験から、そして、韓国の障がい者の演劇集団との交流実践の経験から学びます。
- 第4回 講演 憎しみを超えるために必要な運動について② 5月14日（火）午後7時～9時
山本薫さん（やまもと かおる：アラブ文学研究者、東京外国語大学講師）
*「国際社会」が恣意的に引いた国境線に翻弄され、平和と暴力、創造と破壊、愛と憎しみの境界線を揺れ動くパレスティナの人びとの「声」に耳を傾け、憎しみの増すこの社会の中で、他者の尊厳を尊重することの意味を考えます。
- 第5回 講演+映画上映会 みんなで働く みんなで生きる 5月21日（火）午後6時30分～
高浜和行さん（たかはま かずゆき 元中学校教員、いきいきプラザ施設長。映画 Workers 出演者）
*「自己責任」という言葉に象徴される、「強くあれ、競争に勝て！しかし、元気でいろ」という現代社会の「当たり前」を問い直し、人びとが、他者を尊重しながら、孤立せず、ゆるやかにつながっていく社会の可能性について考えます。
*講演後に、Workers上映実行委員会主催による映画Workersの上映会（参加費250円）をおこないます。別紙チラシをご参照ください。

●受講料：無料

●申込み・問合せ

ご来館いただくか、お名前、住所、電話番号を記入の上、電話・FAX・e-mailで。

〒210-0833 川崎市川崎区桜本 1-5-6

TEL：044-276-4800 FAX：044-287-2045

e-mail：fureaikan@seikyuu-sha.com

主催：川崎市ふれあい館・川崎市教育委員会

